

# 早期英語教育 充実を 教室運営者ら研究会福井支部発足

## 第1回会合 母親ら指導法学ぶ

子育て中の親や英語教師らが0〜12歳の英語教育について学ぶ「早期英語教育研究会」福井支部が12日、発足した。第1回研究会が同日、福井市の県生活学習館で開かれ、小中教諭や親子連れら約100人が英語を話す子どもの育て方のコツを学んだ。

同研究会は、東京で子ども向けの英語教室や英語講師養成講座を開く羽織愛さん(37)が会長を務め、県内で英語教室を運営する三井あかりさん(34)・南越前町が福井支部長を務める。

毎月1回程度、会員が集う場を設け、母親らがそれぞれの教育法を紹介し合ったり、子どもたち同士で英語を話す機会を設けたりして、幼少期から話す力を高めていく。

第1回研究会では、羽織会長が「どんな英語を話す子の育て方」と題し講演。子ども

たちに自発的に英語を話させるには「簡単な名詞でも英語で言えたら大きなリアクションで褒めると良い」と話した。

講演後の座談会では、小学校での児童への指導法について「英語を話せた時の利点や指導法の効果を日本語で説明するなど工夫が必要」と指摘。家庭では、英語の絵本1冊を暗唱できるようにするまで読み聞かせたり、風呂の時間を「英語時間」にしたりの方法を紹介した。

9歳と10カ月の娘2人を抱える西澤悠子さん(38)・鯖江市は「家庭でも実践できる方法を教わり、難しく考えなくても良いと気が楽になった。早速絵本の読み聞かせに挑戦する」。県内中学校の英語教諭は「使える英語を生徒たちに教えるのが課題。学校や家庭で教えるヒントになった」と話した。

羽織会長(左)に話を聞き、英語を話す子どもの育て方について学んだ第1回研究会＝12日、福井市の県生活学習館

県内では国に先行して2018年度から小3〜5年の外国語活動と小6年の英

語教科化を開始。19年度には小5年も教科化される。(栗原愛)

